

不登校児童生徒の保護者支援事業の実施報告について

毎年、板橋フレンドセンターにおいて、同じ悩みを持つ保護者同士で語り合い、情報交換することを目的として、通級生の保護者を対象とした保護者交流会を実施している。なお、令和6年度からは実施回数を増やす予定であり、保護者支援の充実を図っている。交流会では、同じような立場の保護者同士が話をすることで、経験や知識など情報交換をしながら新たな視点を得たりすることができるなど、とても有意義であると感じをいただいていることから、今年度、新規事業として、フレンドセンターの通級有無に関わらず、不登校や不登校傾向のある児童生徒の保護者を対象に、不安解消や情報交換等を目的とした保護者交流会を実施した。

また、今年度で5回目となる、進学に不安がある生徒や保護者向けの進学先高校個別相談会を実施したので、各事業の実施状況を報告する。

1 実施概要

(1) 進学先高校個別相談会

実施日：令和6年7月21日（日）実施

参加者：100名（親子56組参加）

内 容：15校の高校が参加し、各ブースにて個別相談を実施した。また、フレンドセンターに関する相談ブースや指導主事による進学相談ブースを設置し、各種相談に応じた。

参加高校：【都立高校8校】

板橋有徳高等学校、桐ヶ丘高等学校、稔ヶ丘高等学校、六本木高等学校、一橋高等学校
小台橋高等学校、新宿山吹高等学校、北豊島工科高等学校

【私立高校7校】

八洲学園高等学校、大原学園美空高等学校、大智学園高等学校、飛鳥未来高等学校、
立志舎高等学校、CLARK NEXT Tokyo、東京文理学院高等部

(2) 保護者交流会（区内在住・在学の児童・生徒の保護者対象） ※令和6年度新規事業

実施日：令和6年9月8日（日）実施

参加者：59名（小学生保護者33名、中学生保護者26名）

内 容：第1部では、星槎大学の三森睦子特任准教授をお招きし、子どもとの接し方や子どもの心理状態について講演をいただいた。

第2部では、保護者同士のグループトーク（5～6人）として、日頃の子どもに対する悩みを語り合い、また、保護者同士による情報交換を行った。

2 実施総括

(1) 進学先高校個別相談会

- ① 前年度に比べ9年生の相談会への参加率が向上した。

R5 年度：69% R6 年度：82%

- ② 新規出展ブースの相談率が向上した。

毎年度、相談ブースの相談状況を鑑み、R6 年度は新規に6校の高校を招待した。

- ③ 様々な周知方法を展開した。

区の広報媒体はもとより、SSW や教育相談員による個別案内を実施した。

(2) 保護者交流会

- ① 参加しやすい申込方法とした。

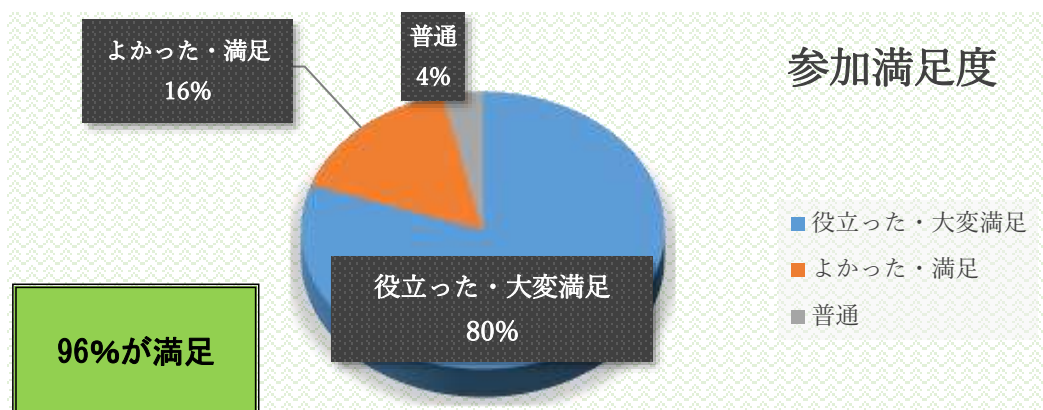
LoGo フォーム（電子申請）によるニックネームでの申込を可能とし、当日もニックネームによる参加を可能とした。

- ② 学年ごとのグループ編制とした。

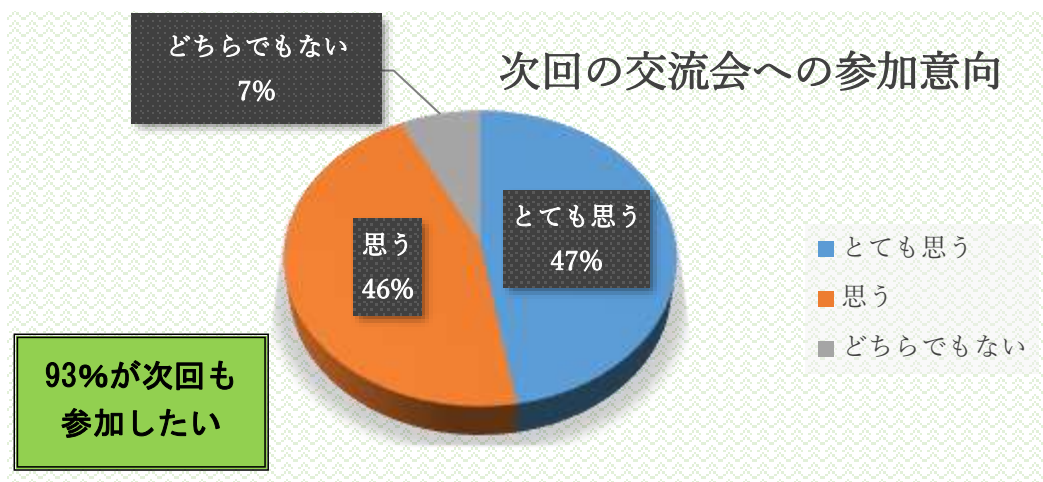
各学齢期により悩みや困りごとが異なるため、同じ学齢期のグループとしたところ、他者に共感するとともに情報交換を活発に行うことができた。

3 アンケート結果

(1) 参加満足度（2事業：回答数137）



(2) 次回、保護者交流会への参加意向（保護者交流会：回答数55）



(3) 参加者意見・要望

① 進学先高校個別相談会

- 進学に向けて具体的なイメージができ、本人のやる気向上につながった。
- 不登校で不安だったが、見通しが立った。
- どのような学校（進路）があるかを知ることができ、将来に希望が持てた。
- 相談先のない不登校の進路相談を行政が開催していただき、地域の問題の一つとして考えてくれていることがとても嬉しく感じた。

② 保護者交流会

- 同じ立場の人とお話ができ、他の方の意見が聞けてよかった。
- 誰にも相談できない事が辛かったので心が軽くなった。
- 講師の講演、グループトークの時間がもっとあればよかった。
- 交流会に参加したのは初めてだったが、とても有意義な時間を過ごすことができた。
- 同じ学校の父母とはセンシティブな内容を話す機会がない為、とても大切な交流の場だった。

【進学先高校個別相談会】



板橋フレンドセンター・進路相談ブース
～通級、不登校、進路相談対応～



高校個別相談ブース
～チャレンジ校や通信制など、
生徒のニーズに合わせて相談～

【保護者交流会】



交流会(教育支援センター) 受付
～ニックネームでの申込や参加を可能～



交流会(教育支援センター) 会場内
～4.5人でのグループトーク～